

定期作況報告

(第4号 平成14年 8月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

7月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.5℃、1.1℃低かった。降水量は平年より47mm少なく、平年対比43%であった。降水日数は平年より3日多かった。日照時間は平年より13.6時間少なく、平年対比69%であった。夏日（最高気温25℃以上）は6日間であった。

8月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々2.2℃、1.2℃低かった。降水量は平年より61mm多く、平年対比276%であった。降水日数は平年より5日多かった。日照時間は平年より16.0時間少なく、平年対比68%であった。夏日は5日間であった。

8月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々3.2℃、1.9℃低かった。降水量は平年より13mm少なく、平年対比69%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より16.4時間少なく、平年対比64%であった。夏日は2日間であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	25.1	26.6	▲1.5	23.4	25.6	▲2.2	22.2	25.4	▲3.2	23.6	25.8	▲2.2
最低気温(℃)	16.5	17.6	▲1.1	14.8	16.0	▲1.2	14.1	16.0	▲1.9	15.1	16.6	▲1.5
平均気温(℃)	20.5	21.6	▲1.1	18.8	20.5	▲1.7	17.9	20.3	▲2.4	19.1	20.8	▲1.7
降水量(mm)	35	82	▲47	96	35	61	28	41	▲13	159	157	2
降水日数(日)	8	5	3	9	4	5	4	5	▲1	21	14	7
日照時間(h)	29.7	43.3	▲13.6	33.8	49.8	▲16.0	29.7	46.1	▲16.4	93.2	139.2	▲46.0

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事 由：止葉期は各品種・苗とも平年並～3日早かったが、出穂期は各品種・苗とも平年より1～2日遅かった。最終止葉葉数は平年に比べ「きらら397」中苗は0.3葉多かったが、「きらら397」成苗は0.2葉、「ほしのゆめ」中苗は0.6葉少なかった。穂揃日数は各品種・苗とも7日で、ほぼ平年並であった。稈長は各品種・苗とも平年より短く、穂長は平年並からやや短かった。㎡当たり穂数は各品種・苗とも平年を上回り平年対比106～113%であった。

出穂後の低温と日照不足により登熟の遅れが懸念されるが、穂数が平年並以上であることより、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品 種 苗	止葉期 (月・日)			出穂期 (月・日)			最終止葉葉数 (枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.19	7.19	0	7.31	7.29	2	11.7	11.4	0.3
ほしのゆめ 中苗	7.17	7.17	0	7.29	7.27	2	10.2	10.8	▲0.6
きらら397 成苗	7.14	7.17	△3	7.27	7.26	1	11.0	11.2	▲0.2

注1) 平年値は平成7～13年の7カ年から平成10年・平成11年を除いた5カ年の平均値。

ただし、「ほしのゆめ中苗」は平成9～13年5カ年の平均値。

2) △・▲印は平年に比べて早・減を示す。

3) 止葉期・出穂期：全茎の40～50%に達した日

表3 生育調査

品 種 苗	稈長 (cm)			穂長 (cm)			穂数 (本/㎡)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
きらら397 中苗	66.9	68.1	▲1.2	16.7	16.6	0.1	761	672	89	113
ほしのゆめ 中苗	70.5	72.1	▲1.6	16.0	16.3	▲0.3	804	756	48	106
きらら397 成苗	64.2	67.1	▲2.9	16.1	16.5	▲0.4	780	704	76	111

注1) 平年値は表2に同じ。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

2) 秋まき小麦： 良

事由： 穂数は平年並であったが、登熟期間の気温が平年より低く経過したため、登熟日数が平年より大幅に長くなり、千粒重が平年を大きく上回った。このため、子実重は平年対比143～151%で極多収となった。リットル重は平年並であった。
したがって、作況は良である。

表3 秋まき小麦の収量

品 種 名	穂 数 (本/m ²)			リットル重 (g)			千 粒 重 (g)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	544	528	16	759	764	▲ 5	44.5	39.3	5.2
	570	595	▲25	780	777	3	45.4	39.1	6.3

品 種 名	総 重 (kg/10a)			子 実 重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	1790	1351	439	773	513	260	151	100	51
	1791	1421	370	796	558	238	143	100	43

注1) 平年値は、前7か年中、平成6年、7年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) とうもろこし： やや不良

事由： 抽雄期は平年より2日～5日遅れ、抽糸期も平年より4日～5日遅れた。草丈、出葉数はほぼ平年並となったが、抽糸期以降も低温が続いているため、雌穂の登熟は遅れている。
したがって、目下の作況はやや不良である。

表4 8月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	抽 雄 期 (月日)			抽 糸 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	7.27	7.25	2	8.2	7.29	4
	8.3	7.29	5	8.9	8.4	5

品 種 名	草 丈 (cm)			出 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	276	276	0	17.3	17.6	▲0.3
	312	309	3	18.9	19.0	▲0.1

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) ▲は平年より減を示す。

4) 大豆： 不良

事由： 開花期は平年より3日遅かった。7月下旬以降の低温と日照不足のため、主茎長、主茎節数、分枝数は何れも平年を下回っており、特に着莢数は平年を大きく下回っている。したがって、目下の作況は不良である。

表5 8月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.17	7.14	3	57	62	▲5	9.9	10.3	▲0.4
トヨコマチ	7.16	7.13	3	62	65	▲3	10.8	11.1	▲0.3

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	6.9	7.5	▲0.6	70.5	88.2	▲17.7
トヨコマチ	7.1	6.7	▲0.4	73.0	85.2	▲12.2

注1) 平年値は、前7か年中、平成7年(最豊)及び平成6年(最凶)を除いた5か年の平均値。
2) ▲は平年より減を示す。

5) 小豆： 平年並

事由： 開花期は「サホロショウズ」で平年並、「エリモショウズ」では平年より2日早かった。日照時間が少ないため、主茎長は両品種とも平年を大きく上回っており、徒長倒伏している。両品種とも本葉数は平年より多く、分枝数は平年より少ない。開花後の気温が低いいため、着莢や莢の伸長にはやや遅れが見られるものの、百粒重は平年を上回ることが予想される。したがって、目下の作況は平年並である。

表6 8月20日の小豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	7.21	7.21	0	69	61	8	11.7	10.7	1.0
エリモショウズ	7.22	7.24	△2	65	56	9	12.1	11.0	1.1

品 種 名	分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	6.2	6.4	▲0.2
エリモショウズ	5.3	6.2	▲0.9

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年を除く6か年の平均値。
2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : やや不良

事由: 「男爵薯」では、7月第5半旬に黄変期に達したものの、7月下旬～8月中旬の気温が平年より低く、日照時間も平年に比べ少なく経過したこと、疫病の発生が認められないことなどから、枯凋期には至っていない。「農林1号」では、前期に引き続き茎長は平年値を大きく下回っている。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表7 8月20日のばれいしょの生育

品種名	茎長(cm)		
	本年	平年	比較
農林1号 男爵薯	56 —	90 —	▲34 —

注1) 平年値は、前4か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

7) てんさい: 平年並

事由: 7月下旬～8月中旬の気温が平年より低く、日照時間も平年より少なく経過し、また7月中旬、8月上旬の多雨により草丈の伸びが緩慢で平年を下回ったものの、枯葉が少なく生葉数は平年を若干上まわっている。根周は平年に比べやや短い。

したがって、目下の作況は平年並である。

表8 8月20日のてんさいの生育

品 種 名	草丈(cm)			生葉数(枚/株)			根周(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	51	63	▲12	30.7	28.6	2.1	28.6	29.5	▲0.9

注1) 平年値は前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。